

リサイクルは本当にエコなのか

石少子田 陽 大

★ **1. きっかけ** きっかけは、前コミュニティサイエンスアカデミアのイベントで「プラスチックゴミ」の問題を話し合っていたときに、糸吉論で「リサイクル」などが「ゴミを減らせればいい」ということになったこと。そのとき、僕は「リサイクルは本当にエコなのか、ゴミを減らせるのか」と疑問を持ちました。そこでこのことについて調べてみました。



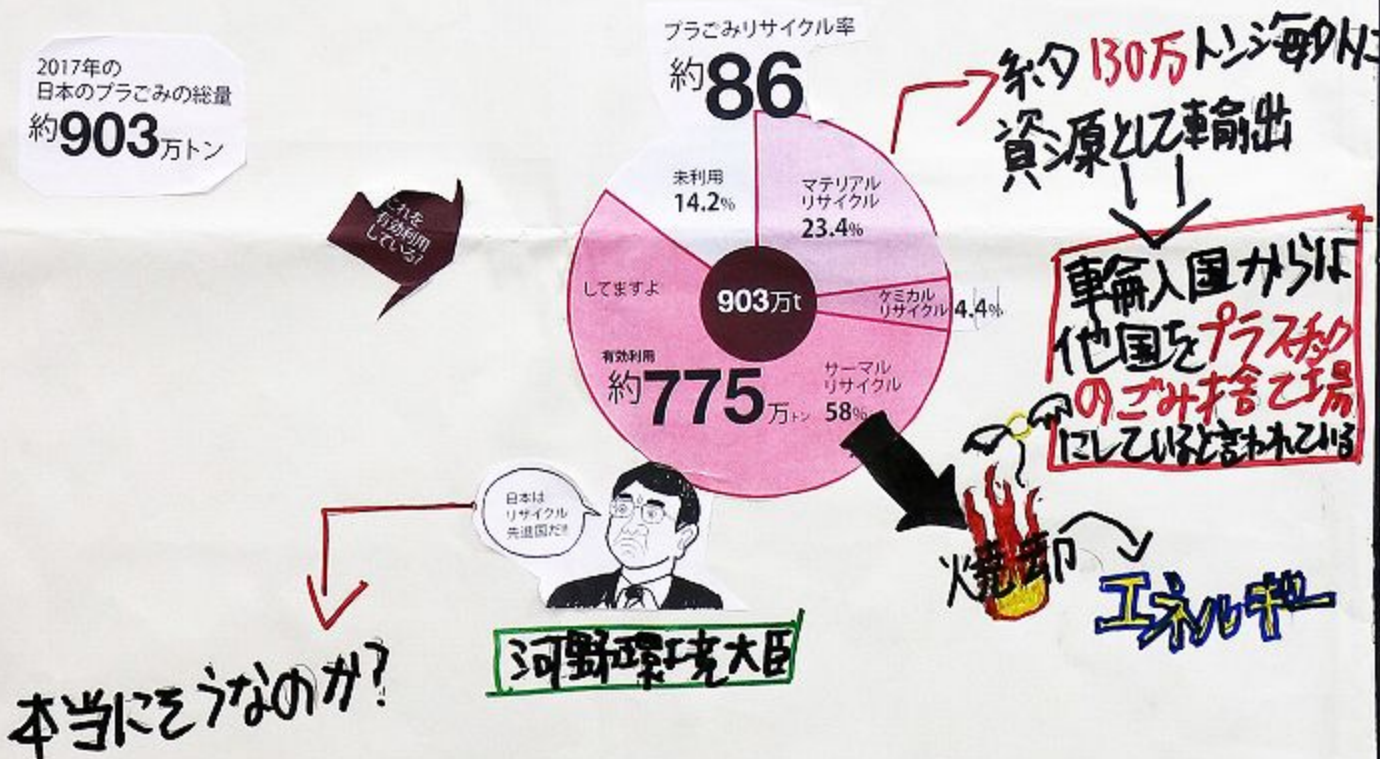
2. リサイクルについて

★ **リサイクルの意味**
リサイクル... 不要品・廃物を再生して利用すること。リサイクルング

- ★ **リサイクルの方法**
リサイクルには主に3つの方法がある。
1. **マテリアルリサイクル**... ゴミを物理的な処理で再資源化する方法
 2. **ケミカルリサイクル**... ゴミを化学的な処理で再資源化する方法。
 3. **サーマルリサイクル**... ゴミを焼却など熱処理しそのエネルギーを利用する方法。

※ **欧米の基準では焼却はリサイクルとはしない。**

★ ゴミのリサイクル率 プラスチックの例



★ **サーマルリサイクルのエネルギーの利用**
サーマルリサイクルで得たエネルギー(熱・電気など)は暖房や温水プールなどに利用されている。

福島県内の例だと「あぶくまクリーンセンター」というゴミ処理施設がある。このあぶくまクリーンセンターでゴミを燃焼して出たエネルギーを「ルンランド福島」という施設で使っている。このリサイクルは普通にゴミを燃焼すればゴミを有効利用しているのだから、他にもしるような方法があるのになぜ燃焼に必要があるのだろうか?

★ **ゴミの再輸出**
2019年の日本の廃プラスチックの輸出量は89万8000トン。これは中国や韓国への輸出が主だったが、中国や韓国が廃プラスチックの輸入を禁止したため、アジアの各土壌に輸出している。しかし、これらの国も廃プラスチックを処理しきれなくなり、輸入が禁止された。結局大量に輸出しているプラスチックもリサイクルの中に入っている。

★ **リサイクルできる物とできない物**
今はリサイクルが推進され、一部の家電製品は法律で粗大ゴミとして捨てられない。また、リサイクルしやすいように部品に工夫をほどこし、分解しやすいようにしている製品もある。家電以外にも着色してあるPETボトルをリサイクルできないため、2001年に着色を禁止したり、市町村が無料で「リサイクル品」を回収したりするなどの工夫があります。しかし、汚れた紙や耐熱ガラスなどはリサイクルできないものもたくさんあり、まだ改善点がある。

3. 考察・まとめ

僕はここまで「リサイクルは本当にエコなのか」という話題について調べてきて、思ったことがありまして「リサイクル」というものの一面だけ見て「エコだ」「エコじゃない」と決めつけていいのだろうかということ。リサイクルにはもちろん欠点がある。しかし、全体的にはメリットが多い。また、その欠点を直そうと努力している人もいます。それなのに「欠点だけを見てエコじゃない」と言ってしまうのはどうか? ただ、課題が多いのも事実です。上であげた欠点だけでなく、機械を使っているから電気を使っているという点も。今、日本の電気はほとんどが火力発電で作られています。つまり、電気を使うことで節約するはずの石油燃料などを使っている。このように多面的に見ることで様々なことが見えってきます。その物の本質、使うためのコスト、使い勝手、欠点、損得... 様々な視点で見て、その物の本質が見えてくる。その物にはその物の得意技がある。不得手があります。この先、良未来にしたいためには、僕たちが本を見極め、使うときに使い勝手をよくする方法と、無駄な物を使わないかなければならないと思います。リサイクルもそうです。使うときは使えばいい、使わないときは使わない。このように、私たちの選択権を持つこと。ことで多様な生活のある豊かな社会になると思っています。昔よりもはるかに選択権が多い。今だからこそ、僕たちには良縁を取らん、悪い物を捨てる。取捨選択の力が求められていると思います。